

倉吉の歴史講談

日時 毎日
10:00～15:30

会場 国有形文化財
豊田家住宅

木戸銭
五百圓也



～泰平の世の侍をも遙かに凌ぐ、
もうひとりの淀屋・牧田仁右衛門～
『淀屋の光と陰』

大都会大阪の中心に架かる「淀屋橋」の名前の元となった天下の豪商「淀屋辰五郎」は五代目の時に、關所・大坂処払いの極刑を受けて没落。しかしながら、先代の番頭であった「牧田仁右衛門」の徹底した陰働きによって、「淀屋」は再興したのですが、実はこの「牧田仁右衛門」が倉吉の出身で稲扱き千刃の発展普及に深く関与し、倉吉と大坂の橋渡しをし、倉吉の産業発展の礎となった「淀屋清兵衛」の元祖だったのです。

～重陽の儀は転落への幕開けだった～
『たまゆらの人生、
里見安房守忠義』

御存知、滝沢馬琴「南総里見八犬伝」のモデルと伝わっている、房総里見十代里見安房守忠義の無念の想い、真実の里見の歴史を語る新作歴史講談。
江戸時代の初め頃、幕府の陰謀によって国替となった里見忠義主従は、ここ倉吉の地で終焉、東町にある古刹「大岳院」に静かに眠っている。事実は小説よりも恐ろしい、里見安房守忠義の生涯は蜻蛉のような人生であったのです。

～この母の愛なければ～
『近代日本を拓いた母の愛』
～大江磐代君物語～

尊王の父と評価される第百十九代光格天皇の御生母は、倉吉出身の町娘「つる」なのです。今の天皇家には倉吉の血が流れているのであります。
倉吉の町娘「りん」と鳥取池田藩の家老 荒尾志摩守の家臣「岩室常右衛門」との間に生まれた「つる」は、九歳の時、父と京に上り閑院宮家へ奉公。典仁親王の目に留り、後の光格天皇となる祐宮師仁親王を生むことになるという、倉吉でなければ聴くことのできない皇室秘話。

【主催】豊田家住宅「豊田亭」 【講談】倉吉談語の会

〒682-0862 鳥取県倉吉市西町2701 TEL・FAX.0858-23-0440 mail:toyodake@apionet.or.jp



【後援】倉吉市観光協会・倉吉商工会議所・山陰合同銀行・倉吉信用金庫